



〒663-8558 西宮市池開町6-46

武庫川女子大学言語文化研究所

TEL 0798 (45) 3536

FAX 0798 (45) 3574

<http://www.mukogawa-u.ac.jp/~ILC>

## 動詞で探る “スポーツ人生”

今年は4年に一度のオリンピックイヤー。だから、というわけでもないのですが、今回のテーマは、スポーツのことばです。スポーツ雑誌を調査材料に、スポーツを語る際に「動詞」がどのような使われ方をしているのかに注目します。

### ◆調査概要

《雑誌》『Sports Graphic Number』<sup>①</sup> 2007年4月～8月（675号～684号）  
計10冊（隔週刊）

《データ》 同誌に毎号「SPECIAL FEATURES」のタイトルで掲載された内容。「SPECIAL FEATURES」は、活躍した選手やチーム、注目選手へのインタビュー、紹介、評論などで記事が構成されている。そこには、いわば、選手の“スポーツ人生”とも言える内容が盛り込まれている。これらの記事の内、インタビューなど会話部分を除いた箇所を調査対象とする。

#### 《データの取り方》

- ・ 奇数号は奇数ページを、偶数号は偶数ページを対象とする。そのページ全面が写真等でデータが取れない場合は、次（あるいは前）のページを対象とする。
- ・ 地の文のみで構成されている段落をブロック（=かたまり）としてデータをとる。「 」でくくられた会話文の引用を含む段落は対象としない。
- ・ そのページ数の合計数に対応する段組みからデータを取り始めて、1ページあたり約4分の1相当量を入力データとする。（例：35ページなら3+5=8として、上から数えて8段目に当たる段の右端の段落からデータを取り始める。）

計806ページ分、3,326文のテキストデータを形態素解析で処理し、出現頻度を調べた。動詞の度数順語彙表（頻度7まで）は次に示す表1の通り。この中から、特にスポーツにかかわると思われる動詞と、反対に、スポーツとは一見かわりがないような動詞とをいくつか取り上げる。それらの動詞が、文脈の中でどのような使われ方をしているのかを見ていきたい。以下に調査結果の一部を報告する。

<sup>①</sup> 発行：文藝春秋，発行部数：150,083部，創刊：1980年4月。  
（『雑誌新聞総かたろぐ』2006年版による。）

【表1】 動詞 頻度7まで

語	頻度	語	頻度	語	頻度	語	頻度
する	1239	見せる	21	話す	12	固める	8
いる	738	知る	21	かかる	11	作る	8
なる	308	得る	21	こなす	11	支える	8
ある	229	取る	20	決まる	11	集める	8
くる	158	かける	18	行く	11	重ねる	8
いう	136	使う	18	合わせる	11	消える	8
できる	113	終える	18	思える	11	切る	8
いく	76	立つ	18	狙う	11	迫る	8
見る	75	みる	17	奪う	11	備える	8
思う	61	語る	17	来る	11	聞こえる	8
言う	56	始まる	17	含める	10	並ぶ	8
続ける	56	負ける	17	求める	10	抱える	8
出る	41	聞く	17	巡る	10	目指す	8
考える	39	よる	16	進める	10	つながる	7
入る	36	与える	16	置く	10	とる	7
見える	35	つく	15	認める	10	握る	7
行こう	35	つける	15	抱く	10	押す	7
感じる	34	投げる	15	忘れる	10	加える	7
呼ぶ	34	入れる	15	いえる	9	回る	7
持つ	34	挙げる	14	わかる	9	外す	7
決める	33	示す	14	応える	9	許す	7
走る	31	失う	14	覚える	9	現れる	7
受ける	30	続く	14	驚く	9	控える	7
始める	29	待つ	14	言える	9	攻める	7
戦う	29	離れる	14	向かう	9	仕掛ける	7
終わる	28	蹴る	13	送る	9	似る	7
選ぶ	28	組む	13	付ける	9	増える	7
やる	27	抜く	13	崩す	9	揃う	7
違う	24	向ける	12	味わう	9	踏む	7
出す	24	残す	12	あげる	8	働く	7
上がる	24	残る	12	おく	8	敗れる	7
変わる	24	上げる	12	おる	8	分かる	7
戻る	24	振る	12	すぎる	8	臨む	7
迎える	23	生まれる	12	もつ	8	こだわる	7
果たす	22	打つ	12	異なる	8		
勝つ	22	伝える	12	引く	8		
くれる	21	変える	12	繰り返す	8		

## I. スポーツらしい動詞

表1には、いかにもスポーツを表現するのにふさわしい動詞がいくつか出現する。太字で示した「走る」「戦う」「勝つ」「負ける」「投げる」「蹴る」「打つ」「攻める」「敗れる」の9語である。調査で扱った『Sports Graphic Number』では、野球とサッカーの記事が多く、必然的にそれらに関連する語が多い。「投げる」は野球に関係する語、

「蹴る」はサッカーにかかわる語であろうと推測できる。「打つ」は野球にもサッカーにも関係しそうな語である。また、スポーツの勝ち負けに関係する「勝つ」「負ける」「敗れる」も見受けられる。さらに、「走る」「攻める」「戦う」などは、特定の競技を連想するものではなく、スポーツ全般にかかわる、スポーツらしい語だと言えるだろう。紙面の都合上、以下、「投げる」「打つ」「蹴る」「勝つ」「負ける」「敗れる」の6語の使われ方見てみよう。

#### 【投げる】—野球に関する記事での使われ方—

オープン戦で投げる／メジャーで投げる姿を見たい／魔球を投げる／投げる球

球（ボール）を投げるという、実際に動きを表す使われ方のほかに、オープン戦で投げる、メジャーで投げるという使われ方もあり、これらは動作そのものを表しているのではなく、投手としての活躍の華々しさを表現するものと言える。

#### 【打つ】—野球・サッカーに関する記事での使われ方—

ボールを強く打ち返す／変化球を打つ／3番を打つ／シュートを打つ

野球の場合は、（バットで）ボールを打つ動作を表したり、3番を打つとすることで打撃に優れていることを表現したりしている。サッカーでは、シュートは「打つ」と共起しやすく、「蹴る」とは共起しにくいようだ。「シュートを打つ」と「シュートを蹴る」とを比べてみると、確かに前者の方がつながり方が強いと感じる。

#### 【蹴る】—サッカーに関する記事での使われ方—

ボールを蹴る／長いパスが蹴れる／左足で蹴り込む／スパイクを蹴りあげる

逆に、ボールやパスの場合は「蹴る」と共起しやすく、「打つ」とは共起しにくいと言えよう。

#### 【勝つ】【負ける】【敗れる】—勝負に関係する語—

試合には勝ったものの／単に勝てばいいというのではなく  
負けた悔しさよりも～／負けていたにもかかわらず  
たとえ敗れても／～で敗れるも／～に敗れたものの

スポーツ、特にプロフェッショナルの世界では、試合に勝つか負けるかが重要であるが、それほど単純ではないものもある。「勝つ」の場合には、「勝ったものの」や「単に勝てばいいというのではなく」のように、勝ちをストレートに賞賛するものではなく、むしろ、勝ち方そのものを問うているような表現がある。反対に、「負ける」「敗れる」の場合には、「負けたにもかかわらず」や「敗れたものの」のように、負けはしたが、ほかに見るべきところがあるというニュアンスがうかがえる。これらの書きぶりには、単なる勝ち負け以上に、試合内容そのものにこだわりをもつ“スポーツの勝負観”というものが反映されているように思われる。

## Ⅱ. スポーツらしくない動詞

さて、表1には、網掛けを施した語がいくつかある。「続ける」「呼ぶ」「戻る」「迎える」「果たす」などである。これらは、新聞などを対象とした一般の語彙調査では、あまり上位にランクインしない。且つ、スポーツに直接かかわりがある語だとも思えない。そういう意味でちょっと気になる語である。ここでは、「続ける」「呼ぶ」の2語が、スポーツ雑誌において、どのように使われているのかを確認してみよう。

### 【続ける】—何を?—

プレーを／安定した走りを／黙々とアップを／先発フル出場を／輝かしい成績を／快投を／30試合連続不敗を／あと数年は現役を／懸命の努力を／脅威を与え続けた

### 【続ける】—どのように?—

独自の視点を持って戦い続けた／広島カープで投げ続ける／中盤の底を一人でケアし続けた／アタックし続けなければ／大幅に記録更新し続けている／勝ち続ける／攻め続けた前半も／練習で走り続けた／結果を求められ続ける境遇

### 【呼ぶ】—だれが?だれを?—

オシムが呼ぶであろう代表候補選手たち／ジーコ監督が闘莉王を最後まで呼ばなかった理由／頑張っている選手はちゃんと呼んでいる／ペルー戦では海外組を呼んで／トラパットニー監督に呼ばれると、そのままユニフォームに着替え／ジーコ時代の主力選手も呼ばれるようになってきた

「続ける」「呼ぶ」などは、語だけを見ると、一見、スポーツには直接関係しないように思える。しかし、例に示した「アップを続ける」「フル出場を続ける」「連続不敗を続ける」「現役を続ける」などのように、練習や努力、試合出場や現役を「続ける」ことは、スポーツ選手にとって、周囲から要求されることであり、選手自身にとって大切なことであろう。また「呼ぶ」は、スポーツ、特にサッカーにおいては、「監督が選手を呼ぶ」ことを表し、それはすなわち、試合に出す（出られる）、あるいは選手として起用する（起用される）という意味を持つ。

このように、スポーツ雑誌における「続ける」という語からは、「継続性」という要素が、「呼ぶ」という語からは、「出場」というシーンが導かれる。「続ける」「呼ぶ」は、スポーツ、少なくとも野球やサッカーでは、選手生命に直結する、重要な意味を持つ動詞と言えるのではないか。

文章中にちりばめられたスポーツらしくない動詞によって、私たちは、スポーツ選手の“スポーツ人生”を、知らず知らずのうちに読み取っているのかも知れない。

担当：佐竹秀雄・岸本千秋  
作業協力者：梅澤友紀